

日本政治学会会報

The JPSA News

No. 27

MAY 1994

京都IPSAラウンド・テーブルひらかる

国際交流委員会IPSA関係小委員長 蒲島郁夫

まだ春冷えの厳しい3月26日と27日の両日、京都国際会議場で世界政治学会(IPSA)ラウンド・テーブルが開催された。日本での開催は1982年に続いて2度目である。今回は「冷戦後の国際秩序と国内政治経済—アジア・太平洋地域へのインプリケーション」というテーマで行われた。

26日午前からの会議は、S. ハンチントン・ハーバード大学教授の「冷戦後世界における民主化の波」、三谷太一郎東京大学教授の「地域主義—近代日本の場合」、C. ペイトマン・UCLA教授の「20世紀末の民主主義」の3つの基調報告で始まった。議論は大いに沸騰。司会の佐々木毅東京大学教授の休憩宣言に対して、「今、コーヒー・ブレイクをとれば議論が中断されるではないか」と、休憩反対の声があがる程であった。

同日午後の第1セッションのテーマは「冷戦後の国際秩序」である。R. コヘイン・ハーバード大学教授が「世界経済と国内政治の国際化—比較研究のための枠組み」、猪口邦子上智大学教授が「ボックス・コンサルティス—ポスト覇権システムの出現」を発表。高坂正堯京都大学教授の軽妙な司会のもとで、活発な議論が展開された。

27日の第2セッションは「途上国の経済発展と民主化」がテーマ。F. ミランダ・フィリピン大学教授が「マルコス後フィリピンの政治経済」、藤原帰一東京大学助教授が「権威主義的民主主義—東北・東南アジアにおける政府党体制」、D. C. シン・ソウル国立大学教授が「韓国における民主化と生活の質の変化」を発表した。3人の発表者と高木誠一郎埼玉大学教授など3人の討論者との厳しい応酬も、リベラル派であるT. ロウィ・コネール大学教授の「独裁」的で、ユーモアのある

司会で和らげられた。

同日午後の第3セッションは「先進国の経済と新政治秩序」である。司会は次期IPSA会長に内定しているJ. レッカ氏。P. ホール・ハーバード大学教授が「相互依存時代のヨーロッパの政治経済」、M. G. シュミット・ハイデルベルグ大学教授が「1989年以後のドイツの政治経済」、曾根泰教慶応大学教授が「日本の成長経済は終わったのか?」を発表した。これに対して、古矢旬北海道大学教授と大嶽秀夫京都大学教授が、熱弁をふるってコメントをされた。

今回の会議で特筆すべきことは、日本から参加したすべての司会者、発表者、討論者の英語力、表現力が素晴らしかったことである。学会の長老の方々も「隔世の感がある」と感想を述べられていた。その意味で、「国際会議で黙って座っている日本人」という、ステレオタイプの内的な内外の評判を一変するものであったと思われる。

京都IPSAラウンド・テーブルは、外国からの参加者が述べたように「excellent academic exchange」であったが、それは、世界のまさに第一線で活躍している学者が招待に応じ、実りある議論を展開して下さったからである。そして、会議全体の成功は、三谷太一郎政治学会理事長、升味準之輔組織委員長、内田満資金委員長、村松岐夫企画運営委員長、佐々木毅IPSA執行委員、有賀弘常任委員会幹事をはじめとする大会関係者のご尽力、多くの後援者のご支援、また、会議の運営に当たられた五百旗頭眞神戸大学教授、真淵勝大阪市立大学助教授、秋月謙吾京都大学法学部助教授と院生団のご活躍の結果である。

学 会 ニ ュ ー ス

1994年度 日本政治学会研究会プログラム (1994年4月現在)

10月1日(土)

共通論題A マス・メディアと政治学

- 司会 内田 満 (早稲田大学)
報告 鶴木 眞 (東京大学)
「情報主権と新国際情報秩序」
報告 佐藤卓巳 (同志社大学)
「マス・メディアと大衆的公共性」
報告 掛川トミ子 (関西大学)
「ウォルター・リップマンの
マス・メディア論」
討論 谷藤悦史 (早稲田大学)
討論 大河原伸夫 (九州大学)

分科会A 保守主義の再検討

- 司会 奥村大作 (日本大学)
報告 岸本広司 (岐阜教育大学)
「バークの保守主義」
報告 添谷育志 (東北大学)
「現代イギリスの保守主義」
報告 谷 喬夫 (新潟大学)
「ドイツにおける保守革命論
—C. シュミットの場合」
討論 渋谷 浩 (明治学院大学)
討論 小野紀明 (神戸大学)

分科会B ヨーロッパの新興政党と政党政治の変容

- 司会 小野耕二 (名古屋大学)
報告 鈴木桂樹 (熊本大学)
「イタリア：北部同盟を中心に」
報告 高橋秀寿 (立命館大学)
「ドイツ：共和党を中心に」
報告 畑山敏夫 (佐賀大学)
「フランス：国民戦線を中心に」
討論 岩本 勲 (大阪産業大学)
討論 村上信一郎 (中部大学)

分科会C 『アジア・モデル』の政治経済学

- 司会 加茂利男 (大阪市立大学)
報告 大内 穂 (八千代国際大学)
「社会経済開発における政府の役割
—途上国の貧困緩和政策を中心として」
報告 大西 裕 (大阪市立大学)
「開発モデルとしての東アジア工業化」
討論 鈴木佑司 (法政大学)

討論 木村 幹 (愛媛大学)

分科会D 現代政治における市民と政府

- 司会 山崎克明 (北九州大学)
報告 荒木昭次郎 (東海大学)
「協働概念と政治参加」
報告 今川 晃 (熊本県立大学)
「住民による行政統制」
報告 川野秀之 (玉川大学)
「行政救済の政治的効果」
討論 秋山和宏 (日本大学)
討論 佐藤俊一 (中京大学)

分科会E IPSAラウンド・テーブル政治研究 集会—「冷戦後の国際秩序と国内政治 経済」の研究報告会

- 司会 佐々木 毅 (東京大学)
報告 三谷太一郎 (東京大学)
「IPSAラウンド・テーブル研究会報告につ
いて」
報告 猪口邦子 (上智大学)
「IPSAラウンド・テーブル研究会報告につ
いて」
報告 藤原婦一 (東京大学)
「IPSAラウンド・テーブル研究会報告につ
いて」
報告 曾根泰教 (慶応義塾大学)
「IPSAラウンド・テーブル研究会報告につ
いて」

10月2日(日)

共通論題B ネイション・ステイトとガバメンタ ル・システム

- 司会 鴨 武彦 (東京大学)
報告 梶田孝道 (一橋大学)
「ポスト・ナショナルな政治社会空間と国
家の変容—ヨーロッパ統合問題への一視
角」
報告 藪野祐三 (九州大学)
「ガバナビリティの限界と新しい政治の枠
組」
報告 森田 朗 (東京大学)
「社会環境の変動とガバメンタル・システ
ム」(仮)

- 討論 田中孝彦 (一橋大学)
 討論 岩崎美紀子 (筑波大学)
分科会 F 合理主義的政治理論の可能性
 司会 足立幸男 (京都大学)
 報告 橋本信之 (関西学院大学)
 「サイモン政治理論の今日的意義」
 報告 小林正弥 (千葉大学)
 「合理主義的政治理論批判」
 報告 野田裕久 (愛媛大学)
 「リベラリズムにおける合理主義」
 討論 間宮陽介 (京都大学)
 討論 黒川修司 (横浜市立大学)
分科会 G 近代日本の政治と行政
 司会 御厨 貴 (東京都立大学)
 報告 西尾 隆 (国際基督教大学)
 「近代日本の技術官僚と政治
 - 森林政策における合理性と正当性」
 報告 河野康子 (法政大学)
 「吉田内閣期の通商政策をめぐる政治過程」
 報告 吉田博司 (聖学院大学)
 「内務官僚の政治意識」
 討論 小原隆治 (成蹊大学)
 討論 大山耕輔 (筑波大学)
 討論 笠原英彦 (慶応義塾大学)

- 分科会 H 国際システムと国際統合
 - インドとベトナムの場合
 司会 浦野起央 (日本大学)
 報告 広瀬崇子 (大東文化大学)
 「インドにおける国家システムと民族統合」
 報告 五島文雄 (大阪外語大学)
 「ベトナムの国家システムと政治統合」
 討論 伊豆見 元 (静岡県立大学)
 討論 吉田 修 (名古屋大学)

- 分科会 I 大阪周辺都市の現状と課題
 司会 若田恭二 (関西大学)
 報告 森脇俊雅 (関西学院大学)
 「地方議会の腐敗と再生 - 尼崎と川西」
 報告 孝忠延夫 (関西大学)
 「ムラ型政治と市民自治
 - 大東市長選挙経験をふまえて」
 報告 テリー・マクドゥーガル
 (スタンフォード日本センター)
 「革新自治体のゆくえ
 - 国際比較の視点から」
 討論 上田惟一 (関西大学)

* 海外の政治学会との国際交流セッション

(注) 海外からの研究者の都合により、日程の変更が生ずることも予想されますので、ご注意下さい。

1993年度 第4回理事会記録

日時 1993年12月4日(土)午後1時30分～2時30分
 場所 東京大学法学部会議室

1993年度第4回理事会においては、以下の事項が報告・協議された。

〔報告事項〕

1. IPSA(世界政治学会)ラウンド・テーブルの件
 蒲島国際交流委員会 IPSA 関係小委員会委員長より、94年3月25日から27日にかけて開催される IPSA ラウンド・テーブルにおける司会者・報告者・討論者等の顔ぶれが紹介された。また、佐々木理事 (IPSA ラウンド・テーブル組織委員会事務局担当) より、不況の中で苦しい資金集めが進められていることが報告された。

2. 各委員会報告

(1) 企画委員会

猪口1993年度委員長より、93年度研究会が無事終了したことについて、開催校・企画委員・事務局に対する謝意が述べられた。次いで、本田94年度委員長より、94年度の企画委員及びテーマが紹介された。

(2) 年報委員会

田口93年度委員長より、93年度年報が予定通り刊行される見込みである旨報告された。次いで、田中94年度委員長より、今後のスケジュールが紹介された。西尾95年度委員長からは、95年度年報委員として、寄本勝美 (早稲田大学)・曾根泰教 (慶応義塾大学)・御厨貴 (東京都立大学)・真淵勝 (大阪市立大学)・

山口二郎（北海道大学）の5名に依頼したこと、及び文部省科学研究費の申請を行ったことが報告され、今後のスケジュールが紹介された。

(3) 文献委員会

欠席の藤原93年度委員長にかわり、三谷理事長より、作業が無事終了した旨報告された。五百旗頭94年度委員長からは、業績の自己申告用紙を配布する等作業が予定通り進行している旨が報告された。

(4) 国際交流委員会

村松国際交流委員長より、93年度研究会におけるAPSA（アメリカ政治学会）及びECP R（European Consortium for Political Research）との交流の結果、両者から今後ますます積極的に交流を深めていきたい趣旨の提案がなされている旨、報告があった。また、北岡二国間小委員長より、来年のAPSA大会へ山口二郎（北海道大学）・田中愛治（東洋英和女学院大学）の両会員を派遣する方針で資金調達に努力している旨の報告があった。さらに、村松委員長より、94年8月21日から25日にかけて開かれるIPSA世界会議についてのアナウンスメントがあった。

〔協議事項〕

1. 日本学術会議会員候補者及び推薦人選出の件
日本学術会議から近日中に依頼のある予定の同会議会員候補者及び推薦人の選出に関して、前例にならって、次のような選出方法を決定し

た。即ち、会員候補者については、本学会顧問及び理事を被選挙人、理事を選挙人とする郵便投票を行い、上位2名を当選人とする。推薦人については、顧問・学術会議会員経験者・理事の内で会員候補者とならなかった者の中から5名に理事長が委嘱する。郵便投票の締切は12月24日午後5時とする。

なお、選挙管理委員として、沖野理事、北岡理事、及び渡辺常務理事を選任した。

2. 来年度年報価格及び会費の件

常務理事より、来年1月末頃判明する93年度年報の売れ行き如何によっては来年度から年報価格が値上げされる可能性があること、その程度によっては来年度の会費の値上げを考える必要もあることが報告され、さらに、来年1月に実施される郵便料金の値上げ、及び予想される消費税率の引き上げによる予算への影響の試算が紹介された。これをうけて、種々来年度予算編成に向けての意見が出され、なるべくそれらを採り入れる形で次年度予算を作成することとした。

3. 入会者承認の件

以下の10名の入会を承認した。

牧原出、長尾悟、川田敬一、十川宏二、丸楠恭一、高橋秀寿、中西寛、裙沢栄一、松里公孝、福島康仁

4. 次回理事会の件

次回理事会を、94年3月12日(土)に東京で開くことに決定した。

1993年度 第5回理事会記録

日時 1994年3月12日(土)午後1時30分～3時15分
場所 東京大学法学部4号館8階会議室

1993年度第5回理事会は、以下の事項が報告・協議された。

〔報告事項〕

1. IPSAラウンドテーブルの件

村松国際交流委員長より、順調に準備が進んでいること、3月23・24日に開催予定のIPSA

(世界政治学会)執行委員会の会場を平安会館から宝ヶ池プリンスホテルに変更したことが報告された。また、資金委員会佐々木理事より、不況のため資金集めが当初の見込みよりは難航したが、目標は一応達成できそうである旨報告された。

2. 各委員会関係

(1) 企画委員会

本田94年度企画委員長より、研究会日程案が紹介され、承認された。

(2) 年報委員会

田中94年度年報委員長より、中特集①ナショナリズムの現在、②戦後日本の政治、のそれぞれに対する公募論文選考についての説明があり、審査基準を含めた審査の経緯が説明された。また、西尾95年度年報委員長より、従来の経緯と今後の予定、公募論文の応募状況について説明が行われた。

(3) 文献委員会

五百旗頭94年度文献委員長より、今後の日程が説明された。

(4) 国際交流委員会

村松委員長より、本年8月にベルリンで開催予定のIPSA世界大会に際して、新執行委員選出のために開かれるカウンシルに、佐々木理事・蒲島IPSA関係小委員会委員長を派遣すること、さらにもう一名、村松委員長または北岡二国間協力小委員会委員長のうちいずれかを派遣することについて提案があり、承認された。また、北岡小委員長より、アメリカ政治学会(APSA)に田中愛治・山口二郎・藤原婦一の各会員を派遣すること、村松委員長も出席する可能性があることの報告があった。さらに、村松委員長より、ECPR (European Consortium for Political Research) のボルドーにおける95年の研究会に参加し、交流を図りたい旨の報告があった。また、三谷理事長より、IPSAカウンシルへの3名の派遣について財団等の援助が受けられない場合、国際交流基金運営委員会の決定を得た上で渡航費用を国際交流基金から支出したい旨の提案がなされ、了承された。

3. 日本学術会議会員選挙の件

理事長より、12月に理事全メンバーによって行われた郵便投票の結果、山口前理事長及び三谷理事長が会員候補者となったこと、内田顧

問・田口理事・村松理事・加茂理事及び渡辺常務理事の5名に推薦人となることを委嘱したことの報告があり、了承された。

〔協議事項〕

1. 1993年度決算・監査の件

常務理事より決算報告、武藤監事より監査報告が行われ、別紙の通り承認された。

2. 1994年度予算の件

常務理事より予算案の提案がなされ、審議の結果、別紙の通り承認された。また、従来別建てであった国際交流積立金(別会計②)と国際交流基金(別会計④)とを合流させて国際交流基金とし別紙のような予算案を組むこと、1991年6月21日制定の国際交流基金運営規程に、以下のような了解事項を付することを承認した。

日本政治学会国際交流基金運営規程に関する了解事項

1. 国際交流基金の充実のため、当分の間、毎年度の一般会計予算から国際交流基金への繰り込みを行う。その際、繰り込み額のおおむね半額は果実とあわせて当該年度の支出可能額にあて、残額は原資の増大にあてるものとする。

2. 規程四の(三)にいう「基金果実より支出できる経費」には、外国学会等の派遣による参加者が研究会において行う報告ペーパーのコピー代金を含むものとする。

3. 入会者承認の件

以下の11名の入会が承認された。

藤岡寛己、新里孝一、今林直樹、大熊平城、黒田俊郎、金恒坤、中山俊宏、佐川泰弘、小林弘二、柳井道夫、鈴木規夫

4. 次回理事会の件

次回理事会は、1994年6月11日(土)、京都で開催することとした。



学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 1993年度決算

費 目	予算額	執行額	差引残高
収入(R)			
1.前年度繰越金	3,198,576	3,198,576	0
2.会費収入	8,220,200	8,881,030	660,830
3.雑収入	30,000	44,971	14,971
収入合計	11,448,776	12,124,577	675,801
支出(E)			
1.研究会開催費	900,000	900,000	0
A.研究会準備金	850,000	850,000	0
B.懇話謝礼・交通費	50,000	50,000	0
2.委員会経費	696,000	696,000	0
A.年報委員会	180,000	180,000	0
B.企画委員会	180,000	180,000	0
C.文献委員会	160,000	160,000	0
D.国際交流委員会	140,000	140,000	0
E.選挙管理委員会	36,000	36,000	0
3.理事会経費	80,000	75,091	4,909
4. IPSA学会分担金	250,000	187,446	62,554
5.事務局経費	940,000	761,640	178,360
A.理事長通信費	100,000	100,000	0
B.運営費	60,000	60,000	0
C.人件費	500,000	500,000	0
D.経常費	280,000	101,640	178,360
6.名簿作成積立金	350,000	350,000	0
7.国際交流積立金	100,000	100,000	0
8.選挙管理費	400,000	400,000	0
9.会報発行費	380,000	383,245	△3,245
10.年報会計へ	4,200,000	4,200,000	0
11.予備費	3,152,776	300,000	2,852,776
支出合計	11,448,776	8,353,422	3,095,354
差引残高		3,771,155	

一般会計資産

現金	121,895
郵便総合口座	3,405,478
さくら銀行普通口座	243,782
合計	3,771,155

別会計(1) 名簿作成積立金

収入 前年度からの繰越	2,411
本年度積立	350,000
利息	582
合計	352,993
支出	0
差引残高	352,993

別会計(2) 国際交流積立金

収入 前年度からの繰越	128,668
本年度積立	100,000
利息	421
合計	229,089
支出	0
差引残高	229,089

別会計(3) 年報会計

収入 前年度からの繰越	2,216,710
一般会計から繰入	4,200,000
利息及び雑収入	19,662
合計	6,436,372
支出	4,405,870*
差引残高	2,030,502

*4,350,730 (岩波書店への支払)
+ 55,140 (事務局発送費)

別会計(4) 国際交流基金

収入 前年度からの繰越	14,302,039
利息	205,267
合計	14,507,306
支出	0
差引残高	14,507,306

学 会 ニ ュ ー ス

日本政治学会 1994年度予算

<一般会計>

費 目	予算額
収入(R)	
1. 前年度繰越金	3,771,155
2. 会費収入	8,754,250
3. 雑収入	40,000
収入合計	12,565,405
支出(E)	
1. 研究会開催費	1,020,000
A. 研究会準備金	970,000
B. 報告者謝礼	50,000
2. 委員会経費	780,000
A. 年報委員会	210,000
B. 企画委員会	210,000
C. 文献委員会	190,000
D. 国際交流委員会	170,000
E. 選挙管理委員会	0
3. 理事会経費	100,000
4. IPSA学会分担金	200,000
5. 事務局経費	1,090,000
A. 理事長通信費	100,000
B. 運営費	60,000
C. 人件費	600,000
D. 経常費	330,000
6. 名簿作成積立金	450,000
7. 国際交流基金へ	200,000
8. 選挙管理費	0
9. 会報発行費	480,000
10. 年報会計へ繰出	4,800,000
11. 予備費	3,445,405
支出合計	12,565,405
差引 残高	0

<年報会計>

収入(R)	
1. 前年度より繰越	2,030,502
2. 一般会計より	4,800,000
3. 雑収入	10,000
収入合計	6,840,502
支出(E)	
1. 年報費用	4,602,000
2. 予備費	2,238,502
支出合計	6,840,502
差引	0

1994年度国際交流基金予算

収入

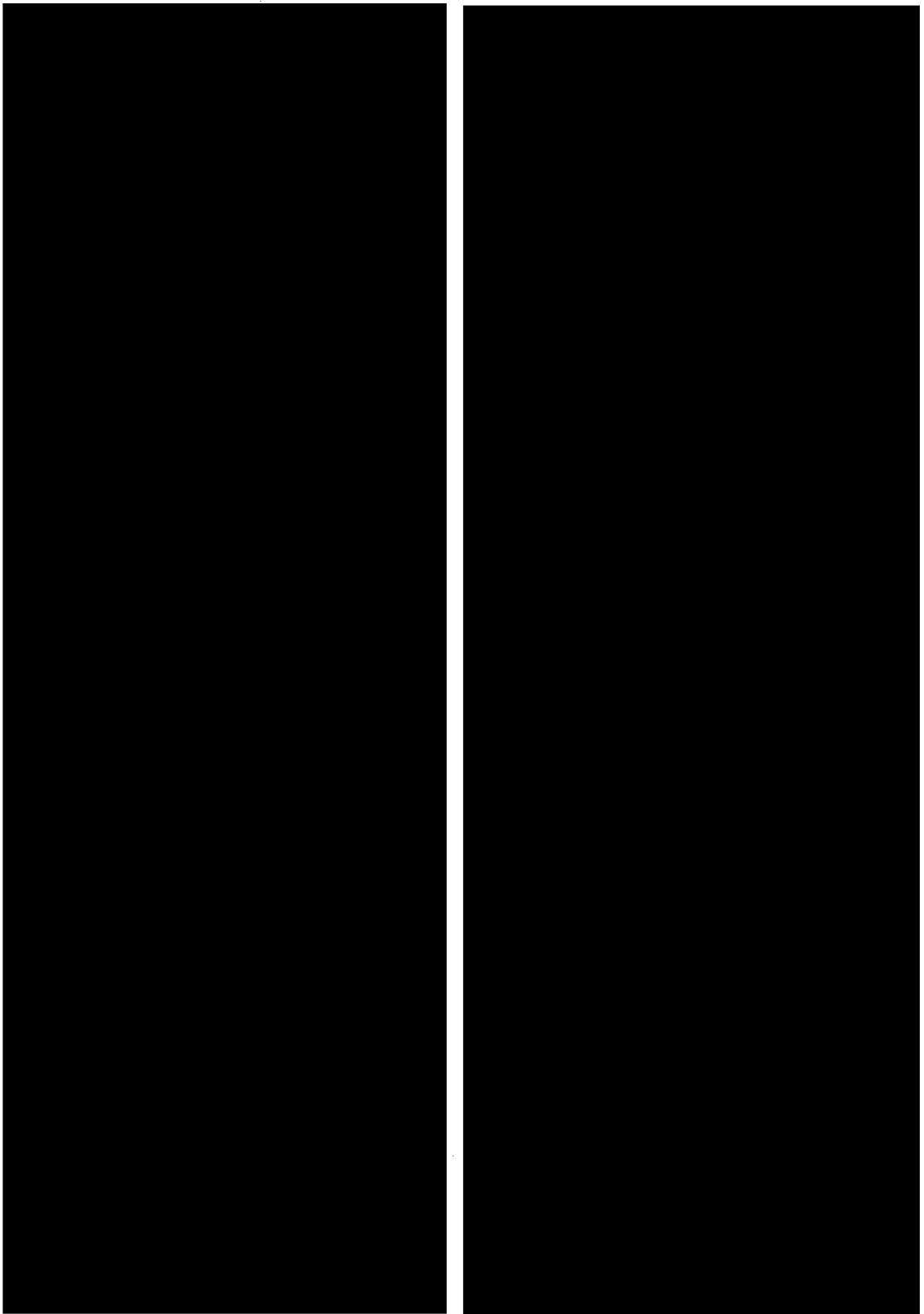
前年度からの繰越	14,736,395*
一般会計より	200,000
IPSA資金委員会返金	1,000,000
利息	200,000
合計	16,136,395

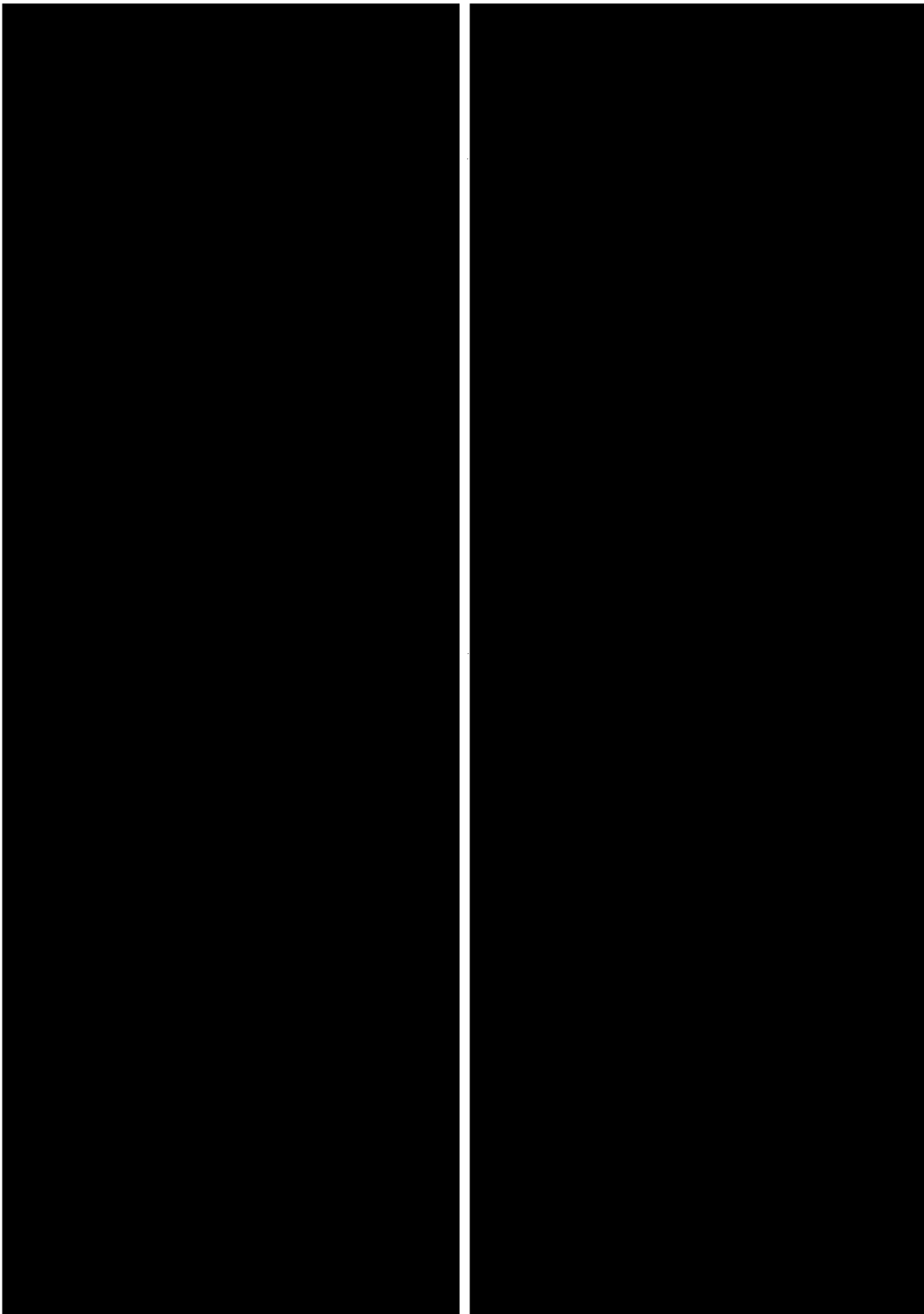
支出

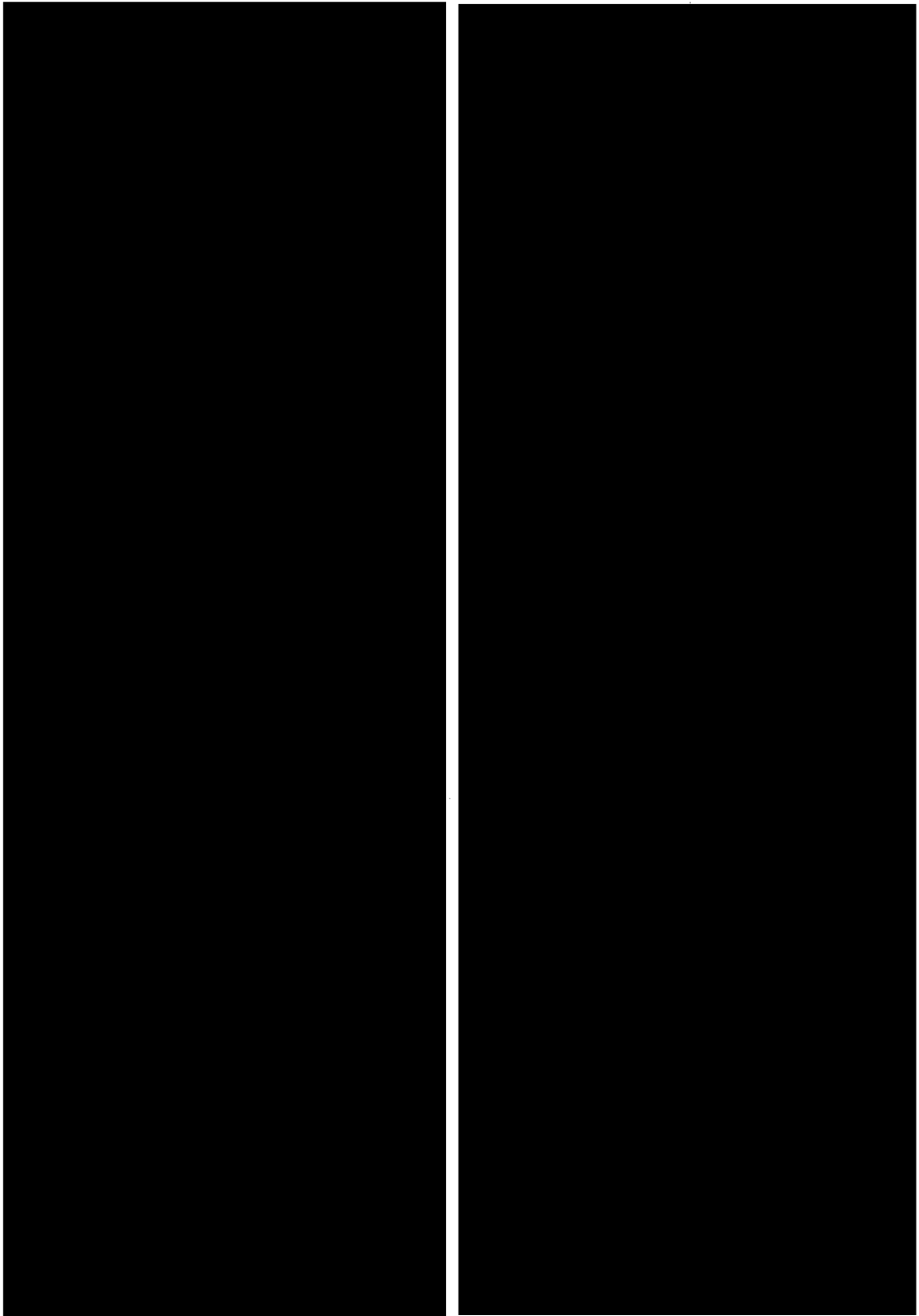
執行予定	300,000
予備費	15,836,395
合計	16,136,395

*従来の国際交流積立金(別会計(2)) ¥229,089と、従来の国際交流基金(別会計(4)) ¥14,507,306とを合流させたもの。

会 員 の 異 動 (1993. 11. 6~1994. 5. 6)







事 務 局 よ り

国際研究集会のお知らせ

Study Group on the Foundations of Economic and Political DemocracyはIPSA世界大会の前日、1994年8月20日に、同じくベルリンで国際研究集会を開きます。このグループはIPSAに正規に登録されるべく公認申請をしていますが、承認の決定は大会後になるとのことです。グループの基本的目標としては、資本主義の批判的分析を行い、オルタナティブな秩序を模索することが掲げられています。グループおよび研究集会への参加呼びかけが届いておりますので、関心のおありの方は事務局へお問い合わせください。代表者の連絡先は下記の通りです。

Rick Kuhn

email Rick.Kuhn@anu.edu.au

phone +61 6 2493851

fax +61 6 2495054

Department of Political Science/Arts,

Australian National University,

GPO Box 4, ACT 2601

Australia.

または

John Berg

email J.Berg@acad.suffolk.edu;

phone +1 617 5738122

fax +1 617 5738703

Department of Government

Suffolk University, Beacon Hill

8 Ashburton Pl., Boston,

Massachusetts 02108-2770

USA

英国学術誌への寄稿の御案内

猪口孝会員より、下記の案内が寄せられました。
(事務局)

「Government and Opposition誌への
投稿のお願い」

Government and Opposition誌はロンドン大学政経大学院(LSE)で編集されている伝統ある比較政治学誌である。1994年から私も編集委員のひとりとなった。学会誌であるPolitical Studies(イギリス政治学会誌)やReview of International Studies(イギリス国際政治学会誌、私はこの学術誌の国際諮問委員でもある)とも異なり、ユニークな編集を堅持している。アメリカの政治学の影響が強いイギリスでも比較的に伝統的なスタイルをもつ学術誌で、比較政治を中軸にしながらも、政治思想や政治理論もよく扱う。日本の購読者と日本からの寄稿をこの機会に是非参加させたいという編集委員会の希望をニューズレターを通じて伝達する次第である。質問などは、猪口孝、東京都文京区本郷7-3-1、東京大学東洋文化研究所、電話03-3812-2111、ファックス03-5684-5197に宛てて下さい。

郵便振替口座の口座番号について

郵便振替口座の口座番号が、郵政省の新処理システム導入に伴い、本年5月から変更になります。しかしながら、来年12月までは新旧の口座番号は併用できるということです。本学会はさしあたり従来の口座番号(東京0-84250)を使用させて頂きます。払込書(振替用紙)の方も、従来のもの

を使用いたします。

新しい口座番号に変更する際には、その旨お知らせ致しますので、よろしくお願い申し上げます。

異動の連絡についてのお願い

名簿記載事項に変更があった場合には、事務局まで御一報下さい。

毎年、年度末に会費2年度分滞納のため、会員資格をなくされる方が相当数生じております、その多くは、転居で事務局からの発送物が届かなくなった方々です。特に住所変更については、必ずご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

また、二年以上御留学等のために海外に行かれる方は、御留学前に、振込用紙の通信欄にその旨御明記の上、お留守の間の会費を先払いして頂きますと、会員資格の喪失という事態を防ぐことができます。

会費納入についてお願い

新年度にあたり、会費を同封の振込用紙にて、お支払いいただきますようお願い申し上げます。

1992年度より年報の会員配布制への移行に伴い、会費は以下ようになっておりますので、当該の金額をお振り込みください。なお、年報の配布は会費納入済みの会員にのみ行います。なるべく早めにお払い込みくださるようお願い申し上げます。

1. 金 額 一般会員 7,500円
 大学院生 5,000円

2. 一般会員の場合

一般会員の方には、7,500円の金額記入済みの振込用紙を同封しておりますので、同金額をご納入下さい。

3. 大学院生の場合

現在大学院生として登録されている方には、5,000円と記入済みの振込用紙を同封しておりますので、変更のない場合は、そのままお振込下さい。

4. 一般会員への変更の場合

登録は大学院生であるものの、すでに大学院生でなくなった方は、金額欄を7,500円とご訂正の上ご送金下さい。(この場合通信欄にて名簿記載事項の変更をお知らせください。)

なお、大学院生とは後期博士課程の正規の学

生のみで、研究生・学術振興会特別研究員などは、含まれませんので、これらに該当される方は、一般会員となります。

5. 前年度会費未納入の場合

93年度会費未納入の会員には、93年度分と94年度とを加えた金額(一般会員15,000円、大学院生10,000円)を記入してあります。

大学院生と登録されていて変更のあった方は、4.の場合と同様10,000円を12,500円にご訂正下さい。

計 報

下記の会員が御逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

木下 丹氏 (甲南大学名誉教授)

1993年12月1日 1905年生

政治理論・政治哲学専攻。

本号の目次	ページ
1. 蒲島郁夫「京都IPSA ラウンド・テーブルひらかる」……	1
2. 1994年度研究会プログラム のお知らせ ……	2
3. 理事会記録 ……	3
4. 1993年度決算・1994年度予算 ……	6. 7
5. 会員の異動 ……	7
6. 事務局より ……	11

1994年5月25日

発行 日本政治学会事務局

渡 辺 浩

〒 113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部研究室内

T E L (03)3812-2111

内線3173(原資料部気付)

F A X (03) 3816-7375

郵便振替番号 東京0-84250

加入者名 日本政治学会

印 刷 株式会社善光堂印刷所